

# ワイルド☆ストロベリー

とある魔術の禁書目録 FAN BOOK



18  
For Adult

恋愛漫画家

色々落ち着いた。  
御坂妹が徐々に姿を現した。

なんでも、自分に御礼をしに  
きたんだという事だった。

「別にそんな気を遣うことなんて  
ないんだぜ」

「客観的に見ても、恩を受けた時は  
きちんとお返しするのが人の道、  
とミサカは主張します」

「まあ、気持ちは受け取るよ」

「はい、身をもって受け取って  
ください、とミサカは願います」

「え、いや、ちょっと待って」

「何で服を脱ぎだすんだ?!」

「あなたはあの時、性的な目で  
ミサカを見ていた、とミサカは  
推察しました」

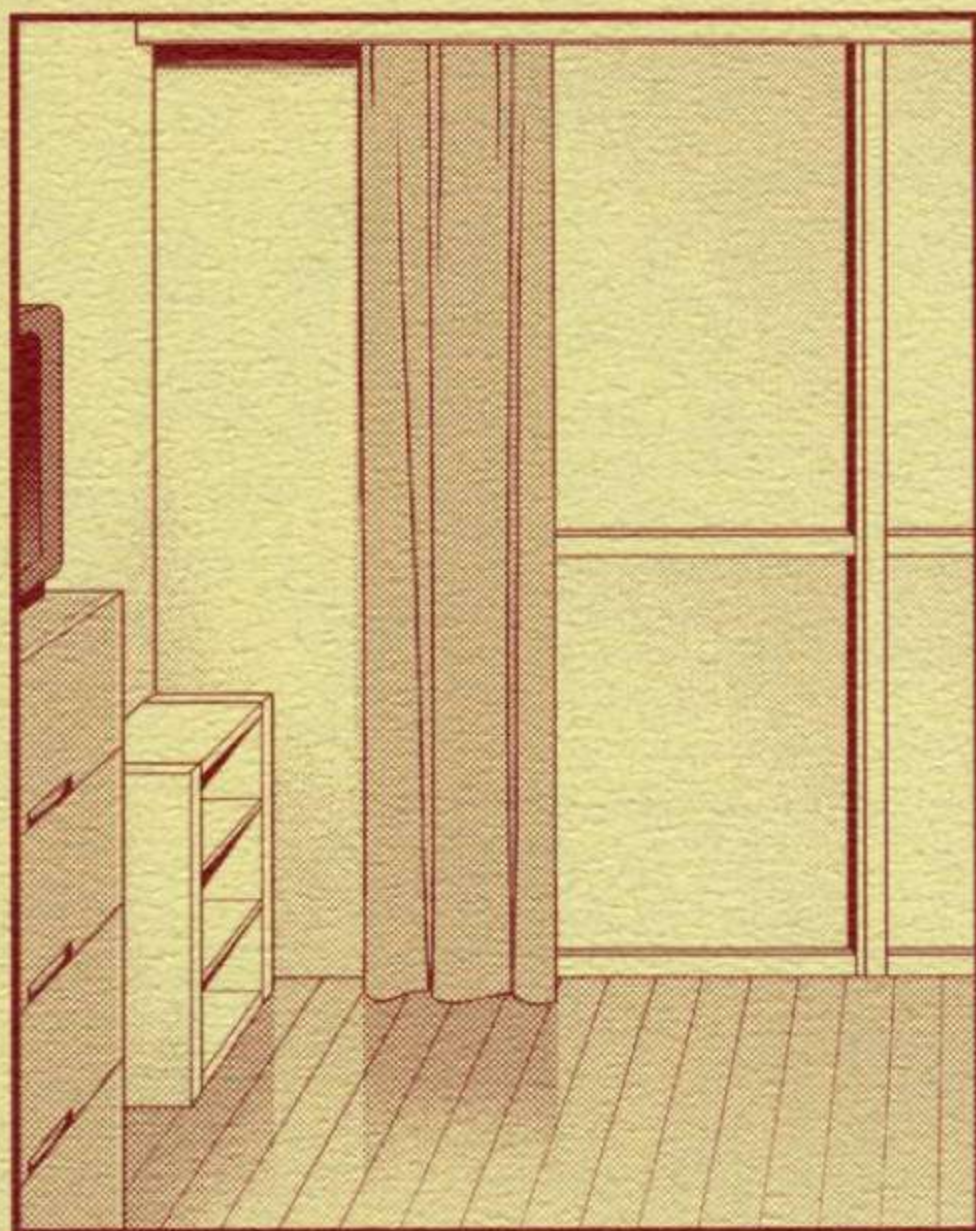
そんな事を言いながら、御坂妹が  
更に脱衣しながら近付いてくる。

確かに自分だって年頃の男な  
わけで、ちょっとした女の子との  
触れ合いでドキドキするのは  
正常だと思うんだ。

「ミサカの身体を捧げるのが一番、  
とミサカは判断しました」

「だからってそれはいきなり過ぎ  
だろう、と俺は思うのだが!」

ベッドまで追い詰められた。





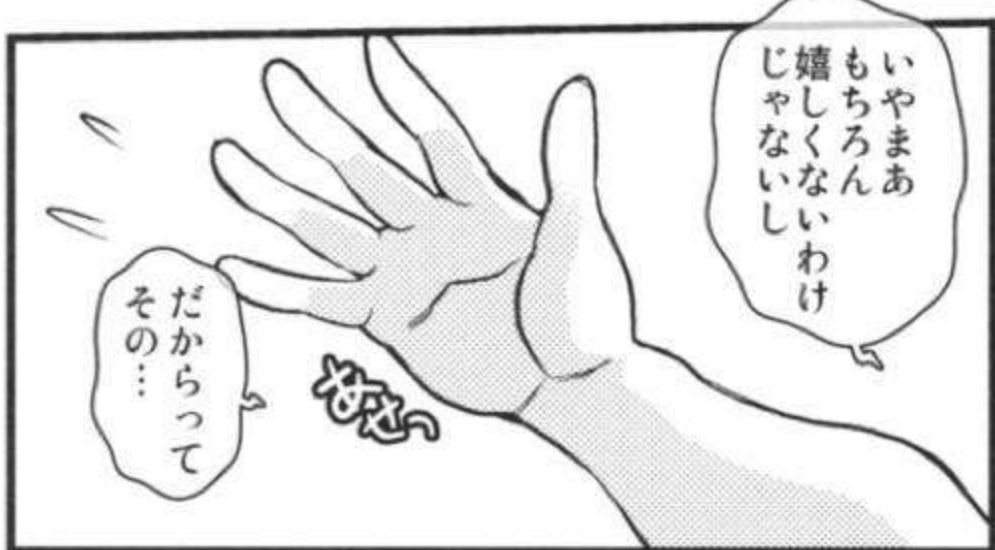
ちよ…ちよっと！  
胸！ おっぱい！  
見えてるんですけど！

服を脱げば胸があるのは  
クロインでも同じですよ  
とミサカは答えます



…随分冷静ですね

自分の中では  
規定事項なので  
取り乱す事はありませんから



いやまあ  
もちろん  
嬉しくないわけ  
じゃないし

だからって  
その…



あなたが本当は  
嬉しいくせにカマトトぶって  
拒否するのは無駄でしかない  
とミサカは指摘します



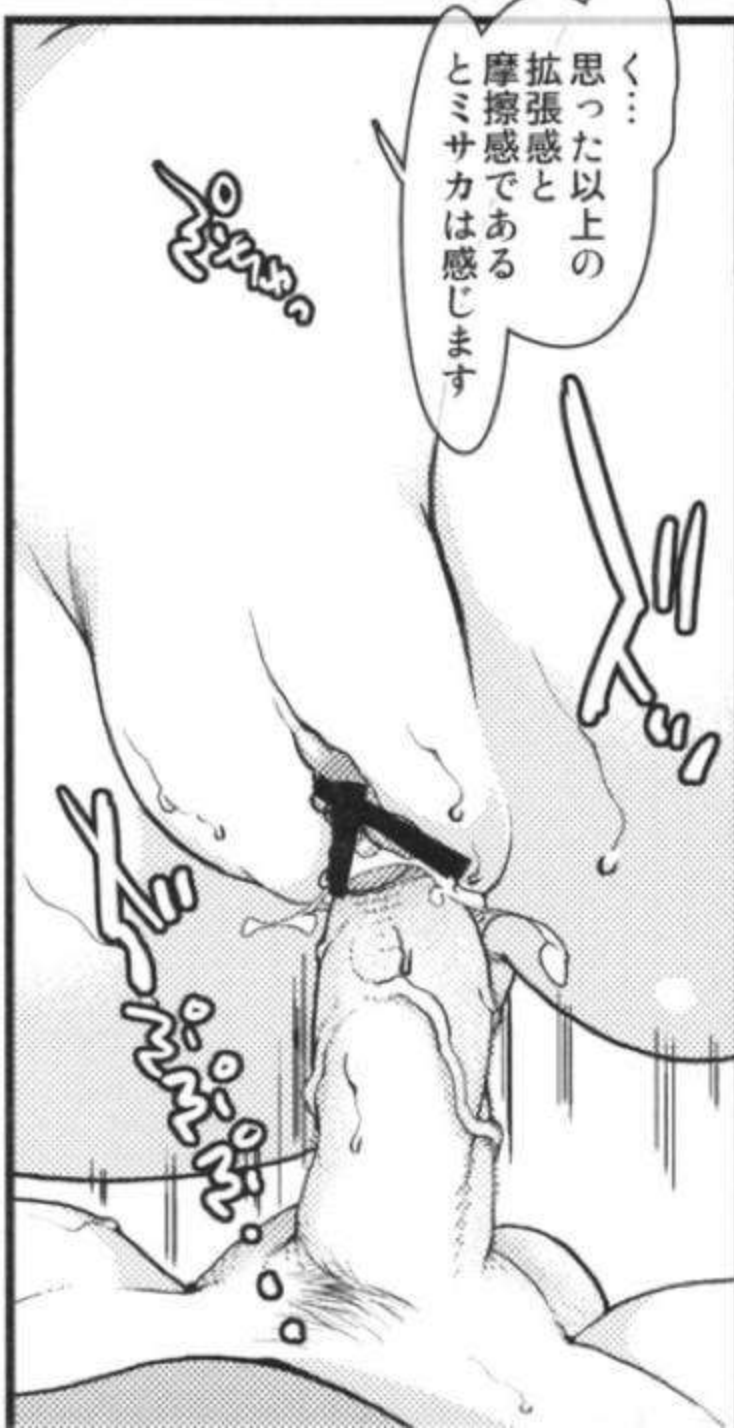
いいから大人しくするように  
とミサカは進言します

は…  
はい…











これだけ濡れてても  
身体が強張ってしまっ  
中々入らないようだ…  
とミサカは分析します

は  
は  
少しずつ入れる方が  
良さそうかな  
とミサカは少し弱気に  
主張します



だから…  
無理する事  
ないんだって



は  
は  
そういう気遣いよりも  
むしろ一緒に動いて  
協力をして  
もらった方が  
気が楽だろう  
とミサカは考えます

い  
…分かった  
早目に終わらせるよう  
やってみるよ



は  
は  
無理は…  
結構してますが



ミサカも徐々に慣れてきたようなので  
こちらの事は気にせず  
あなたの好きなように  
動いて…と

ではそのまま  
思い切り出すように  
とミサカは馬乗りのまま  
指示します



あなたにはただ  
気持ち良くなる事に  
集中してほしい  
とミサカは願います

はー  
はー  
まあ実際…  
既にメチャクチャ  
気持ち良くて  
いつでも出ちやいそう  
なんだけどな

了解した!



気持ちいいのですか?  
とミサカは興味津々に  
聞いてみます

あー  
すげーいい…



は…  
激しい…



はうっ!









あの子を街で見かけた。  
遠くからだだったので、一瞬  
見失ったけど、向かっていた  
方向を考えるに、何となくは  
想像がついた。

多分、あいつの所に向かった  
のだろうと。

現状であの子が何か目的が  
あるとすれば、あいつ——  
上条当麻なはずである。

誰にも言う必要のない事では  
あるが、何かあった時の為に  
アイツの自宅は調べてある。

まあ別に、あの子がアイツと  
あって何をしようが自分には  
関係のない事ではあるのだが。

一応姉という立場がある以上  
何かあっては困るのだ。

「私が守らないとね」

大義名分を胸に学生寮に向かう。

「何よ、鍵開いてるじゃない」

無用心にも程がある。

声は聞こえるから、中には  
いるのだろうが。

そっとドアを開け…固まった。

繋がっている。

あの子が馬乗りになって。

じっとしてると思ったら、

徐々に動きが激しくなり、

そして……動きが止まり。

あの子が崩れ落ちた。

その意味は、何となく分かった  
けど……いや。

やっぱりよく分からなかった。

「何してるのよ！」

自分でも思った以上の強い口調で詰問する。

慌てて身体を起こそうとするが、あの子に乗られて起き上がれない。あいつがちょっと間抜けた。

それとは対照的に、いつものように落ち着いた表情でこちらを見遣るあの子は、まるで私に来ることを見越していたかのようだ。

「…何でゴータルしてるわけ？」

…何を聞いてるんだ私は。

「これはあの時のお礼参りなので、当時の雰囲気を再現したものです、とミサカは真正直に答えます」

…動機付けはイマイチ分からないが、やはりあの時のお礼と言うわけだ。「お礼にしてはやり過ぎでしょ…まさかそいつがやってくれとかふざけた事言ったの？」

そういう事はあまり言いそうにないキャラだけど、男は狼だ。

「むしろ最初は拒否されましたが、以前性的な視線で見られた事はあったので、それを指摘して受け入れさせました、とミサカは赤裸々に告白します」

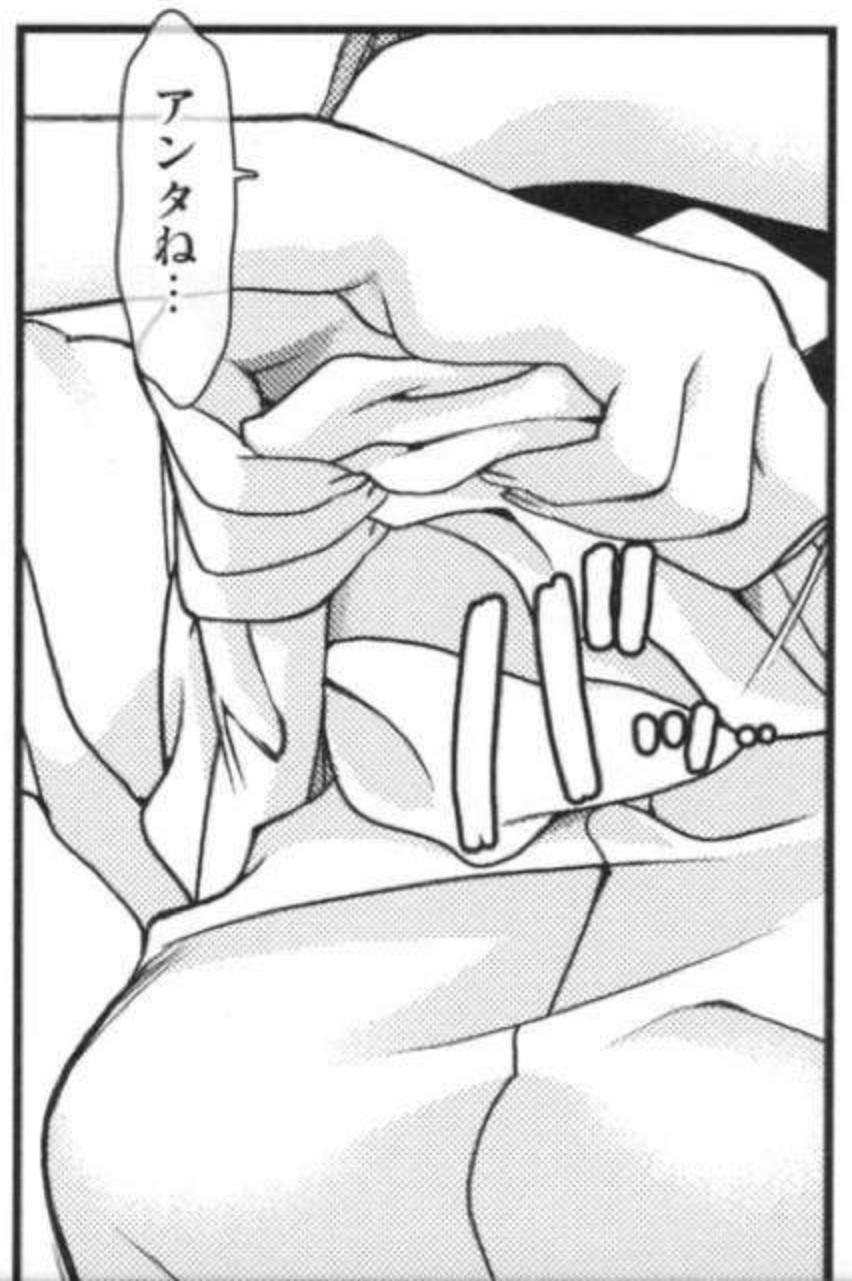
「…それでももう終わったの？」

「そうですね、予想以上の結果が得られたので概ね満足しました」

お腹を押すとドロドロと…多分アイツの精液であろう液体が流れ出した。

…何故かそれは私をイラつかせた。







はっ



見ちゃうだろ普通!

ジロジロ見んなスケベ



服いなくてきくしだから

そんな事ぐらい余裕で出来るわよ!



...それで何をどうすればいいのよ

ある程度は... やってみてもいいから



後はただお姉様の準備だけとミサカは教えます

準備って...?



こちらの準備は出来ていますから

とりあえず  
そのベッドに  
手を突いてください  
とミサカは指示します

ひゃあっ!?

はぁ..

な...舐めてるの?  
そんな事しちゃうの?

そしてミサカは  
そのまま準備に  
入るわけですが  
既に少し濡れていますが  
これでは足りないので  
更に濡らします

あ...うん  
結構悪くない  
いい感じ...かも

はぁ..

分かった  
えっと...  
こんな感じか?

や...優しく  
しなさいよ  
女の子は  
デリケート  
なんだから

はぁ..

お姉様の胸を  
気持ち良くして  
あげてください  
とそちらにも  
指示を出します

おう...







ヤバいこれ…  
メチヤクチャ  
気持ちいい

舌を…  
絡め合う

更に舌を絡めあうと  
良いと付け加えます

すごい…  
本当に  
キスしちゃってるよ

いやあ…  
舌が入ってくる…  
身も心もこじ開け  
られてるみたい…

はあ…  
これマズイよ  
エッチ過ぎる…  
ずっとなんか  
なっちゃった…

いい具合に  
濡れてきました  
とミサカは  
報告しますが  
あまり聞いて  
ませんね…



駄目…  
そんなにしたら  
もう…

あ…ああっ



どうした…

ひっ!?



お姉様  
そろそろ  
一旦区切りを  
つけますよ  
とミサカは予告します



これ凄い……！  
こんなに気持ち良  
いッちゃったの  
初めて……

閉じていた性器が  
十分ほぐれて  
開いた  
とミサカは  
確認しました



……

入って  
きちやうんだ……



……大丈夫よ

身体の内部まで  
外気に晒される  
初めての感覚……

何となく分かる……  
今まで閉じていて  
隠されていた部分が  
開かれて



つまりは  
第一段階を  
クリアした  
と……

お姉様  
大丈夫ですか？

## ワイルド★ストロベリー

とある電掙の禁書目録 FAN BOOK

- 製作 -

恋愛漫画家

- 発行日 -

2008年12月30日

- 印刷 -

Power print

- 連絡先 -

hironasu@mud.biglobe.ne.jp

- HP -

<http://www.renai-manga.com/>

無断転載・複製はお止めください

今回はつつまでした。

…中途半端なところであみませぬ。

でも、どうせなら今回ちょこっとで済ませてしまうより、次回に全力で美琴とエロい事をいっぱいしたいなと思いました。

元々、禁書目録は出た当時から

知ってはいたのであが、その頃は

ラノベ含め小説自体、読む暇があまりなくて、読まずじまいでした。

で、時間がだいぶ経って、超電磁砲が

コミカライズされ、そこから入ったのであ。

禁書の方の漫画も手に入れて、その内に何だかんだでアニメが始まり。

OPでPSI-MISSINGが流れ出した時に

全身ゾクゾクとした痺れが走り、

「これは来た！」と。

ただのE' ソファンであみませぬ…

でももちろん、映像含めてOPはカッコイイであから。

本編が始まると、可愛いインデックス。

動いて喋ると何とこの可愛らしさ。

歩く教会が弾け飛んだ所はもうサイコー！

そんな所ばっかであみませぬ…

そして只今大好きな妹達がかが。

綿パン！ もうたまひませぬ。

あ、もう書くスペースがない…

次はガチエロであ！

そんなばっかであみませぬ！



# ワイルド☆ストロベリー

とある魔術の禁書目録 FAN BOOK

恋愛漫画家 成年向